

※ 学校評価から見た学校経営の重点と努力内容(493名／592名)

○温かみのある学級づくり

- (6) 学校に行くのは楽しいと思う C+D 5.1P 25名 → A+B 100%を目指す
(11) いじめられたり、無視されることがなく安心して活動できている C+D 1.6P 4名 → 0名を目指す

○満足感のある授業

- (2) 授業はわかりやすいと思う C+D 5.5P 25名 → 自分の教科はどうか
(3) 授業では、自分の考えを持ち、自ら取り組んでいる C+D 13.5P 66名 → 授業改善を進める
(4) 授業では、自分で考えたことやわかったことを表現することができている C+D 22.1P 109名 → 授業改善を進める

○心と体の教育の推進

- (7) 学校や学年の行事に関心を持ち、進んで取り組んでいる A+B 94.1P 464名 → A+B 100%を目指す
(8) 生徒会・委員会活動に関心を持ち、進んで取り組んでいる A+B 81.2P 400名 → A+B 100%を目指す
(15) さわやかな挨拶ができている A+B 92.1P 453名 → A+B 100%を目指す

項目	＜分析＞ ○成果、▲課題	＜改善策＞ □後期(継続・改善)、■来年(発展・変更)
温かみのある学級づくり	○ 生徒の学校教育アンケートでは、「さわやかな挨拶ができている」に対して「よくあてはまる」43.1%、「あてはまる」49.0%をあわせて92.1%となった。さわやかな挨拶を心がけている生徒が多い。	□ ・生徒会や各学年H代表の取組の成果が出ている。引き続き「さわやかなあいさつ」を全校生徒ができるような取組を続けて、挨拶をするのが当たり前という雰囲気を維持し意識させる。
	○ 「学校に行くのは楽しい」という肯定的な回答が94.9%で、R6前期より0.6%微増した。	□ ・引き続き、アンテナを高くして生徒の状況把握、情報共有、相談、即時対応する。「楽しくない」生徒に寄り添って状況改善を目指す。 □ ・職員は授業以外でも様々な場面で捉えて関わり、他学年の教員、部活の顧問など情報を共有していく。
	▲ 教員の学校教育アンケート「気になることを話す機会を持つように努めている。」では、肯定的な回答が87.5%とR6前期より5.1%減少している。	□ ・個人懇談週間だけでなく、放課後等も生徒達と関われる時間を捻出するために、2学期より日課を変更した。今後も継続していく。
	○ ▲ 「いじめられたり、無視されたりすることなく安心して活動できる」では、98.4%が、肯定的な回答をしている。また、「自分の周りにいじめやからかいがあったときには、どのように(誰に)知らせればよいか知っている」では、93.9%が、肯定的な回答をしている。	□ ・生徒同士の関わりなど様子を見取り、教員間の情報共有を今後も密にしながら積極的な生徒指導の方針を継続していき、安心して過ごせる雰囲気の学校を作っていく。
満足感のある授業	○ 学校教育活動についてのアンケート「授業のルールを意識し、意欲的に授業に参加している」は、肯定的な意見が93.9%と変わらず高い結果になっており、「よくあてはまる」は42.0%→42.6%と少し増加している。	□ 引き続き授業のルールを生徒と共有し、生徒指導の4つの視点を意識した授業づくりを継続していく。
	○ 学校教育活動についてのアンケート「家庭学習の習慣が身につけている」は、生徒の肯定的な意見は80.9%→78.6%と少し減少している。しかし、保護者の肯定的な意見は61.3%→64.6%と少し増加している。	□ 多くの生徒は家庭学習に継続して取り組むことができている様子である。生徒の状況や時期に合わせて、家庭学習の量や内容の充実を図る。
	▲ 学校教育活動についてのアンケート「授業がわかりやすいと思う」は、肯定的な意見が94.9%→94.6%と変わらず高い結果になっているが、「よくあてはまる」は38.5%→34.6%と減少している。生徒の授業についてのアンケート「授業の内容はよくわかる」は、全教科を通してみると肯定的な意見が90.8%→90.1%と少し減少している。	■ すべての生徒の「わかった」という思いや資質・能力の育成につなげるために、子供主体の授業をより意識し授業改善に取り組んでいく。今年度の取り組みをまとめ・振り返り、来年度の重点や改善につなげていく。
	▲ 生徒の授業についてのアンケート「自分の考えをもち、伝え合うことができる」は、全教科を通してみると肯定的な意見が85.7%→86.4%と少し増加している。 ▲ 学校教育活動についてのアンケート「授業では、自分の考えを持ち、自ら取り組んでいる」は、肯定的な意見が87.5%→86.5%と少し減少している。また、「授業では、自分で考えたことやわかったことを表現することができている」は、肯定的な意見が79.4%→77.9%と少し減少している。	■ 2学期は重点項目①「自分の考えをもつ手立て」に加え、「伝え合う」や「表現する」ことを意識して授業改善に取り組んできた。伝えにくくなる課題の設定など、生徒がより深い学びに向かうしなやかさを工夫していきたい。冬季休業中に行なった教科の実践報告会などを通して教科を超えた実践の共有から学んだことも授業に生かして行きたい。
心と体の教育の推進	○ 「いじめられたり、無視されたりすることなく安心して活動できている」についてはA+B評価が生徒では98%を越えている。	□ あくまでもアンケート時点での状態であるということを忘れず、引き続ききめ細かく生徒の様子を見守っていく。
	○ 「さわやかな挨拶ができている」に対して「よくあてはまる」43.1%、「あてはまる」49.0%をあわせて92.1%となった。R6前期より1.2%微減であった。	□ ・生徒会や各学年H代表の取組の成果が出ている。引き続き「さわやかなあいさつ」を全校生徒ができるような取組を続けて、挨拶をするのが当たり前という雰囲気を維持し意識させる。
	○ 生徒の授業についてのアンケート「道徳の授業は大切だと思う」は、肯定的な意見が97.0%→95.4%と変わらず高い結果になっている。また、「道徳の授業では自分の考えをもち、伝え合うことができる」は、92.3%→93.4%と少し増加している。	□ 2学期に行なった校内研修の学びを生かし、より道徳的価値の理解が深まるようにしていきたい。
	▲ 「学校行事に関心」では「よくあてはまる」「あてはまる」合わせて94.1%だった。R6前期より1.0%増であった。また、「生徒会・委員会活動に関心」では「よくあてはまる」「あてはまる」合わせて81.2%だったが、R6前期より2.5%増であった。90%を目指したい。	□ ・2学期は行事も多かったことから、北星中学校の一員としてみんなで行事に取り組むことに自覚が芽生えたと考えられる。現1,2年生は来年度学校を担っていく自覚をさらにもてるよう日々の実践の中から力を育てたい。
	▲ 学校教育活動についてのアンケート「読書が好きである」は、生徒の肯定的な意見は76.1%→71.6%と減少している。	■ 今後も、「読書が好き・楽しい」とたくさんの生徒が思えるように、図書館でさまざまな取り組みを行っていききたい。
	▲ 「日頃から安全に登下校ができるよう努めている」生徒のC+D評価が0.8ポイントなのに対して、保護者は14ポイントと開きが1学期よりさらに大きくなった。地域からご意見をいただくことは減少したが、生徒の交通マナーへの危機意識の低さが懸念される。	■ 引き続き、様々なアプローチで交通マナーの啓発、指導を行っていく。具体的には個別指導、学年集会、全校集会、放送、学校だより、生徒指導だよりの活用を行っていく。